

学校だより

青葉の丘

平成24年 1月11日

No. 9

長岡市立青葉台小学校

TEL 47-0250 FAX 47-4730

http://www.kome100.ne.jp/aobadai-es/

e-mail 37aoba@kome100.ne.jp

巻頭言

心の豊かさ

校長 木村 民子



昨年3月11日の東日本大震災以後、多くの人々が自分に何が出来るのだろうかと考えました。

これまで、便利で快適な生活を望んだり、多くの物を手にいれたりすることで満足していた時代を振り返り、「あなたにとっての豊かさ」とは何かを、問われる時代になりました。物の豊かさに恵まれただけでは、必ずしも豊かさの実感が得られるわけではなく、心の豊かさを大切にしたい生き方を求めるようになってきました。

本来、子どもたちは希望に満ち生き生きとして、よりよい生活を求め続ける存在だと思っています。一人一人のよさを伸ばし、友達とかかわる中で成長と充実感を味わえるように、本年も教職員一同力を尽くしたいと思います。

「おかげさまで」と
「お互いさまで」と
声かけて、
寄り添いながら、
今年も一年、
あなたとともに。

芽が出て花が咲く
春の喜びは
きびしい冬があったから

幸せいっぱい
の一年で
ありますように

昨年の12月25日の新聞に、日本郵政発売「メッセ - ジ年賀状」の記事が載っていました。「新年にあの人に届けたい言葉は何だろう。自分の言葉で書き出すといいかもしれない。」と書かれていました。

子どもたちにとっても、保護者・地域の皆様にとってもよい一年となりますようお願いしています。

* 日本郵政発売「メッセージ年賀状」より

子どもの頃の体験は、その後の人生に影響する

(「家庭でわくわくお手伝い通信」第24号より)

文部科学省が、昨年度末に、子どもの頃の体験がどんな資質や能力を育むか、成人調査(20代~60代の成人)と青年調査(小学生5・6年、中学2年、高校2年)に基づいて報告書を出しました。その報告のリーフレットに4つのことが書かれていました。

子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤

子どもの頃は家庭や地域などで様々な体験をすることが大切

子どもの頃の幅広い体験が日本の伝統的な作法や教養の習得に関係する

中学生になってもお手伝いや地域活動が効果的

学校でできる体験、家庭でできる体験、地域でできる体験があるかと思っています。様々な体験を経験させたいものです。

暮れに昔懐かしいまゆ玉飾りを見つけたので校長室前に飾ってみました。私が子どもの頃、五穀豊穡を祈願して神棚の下に飾られていました。



教室の窓から

笑顔の花 たくさん咲いています！

1年2組担任 高橋 知子

新しい学校生活にどきどき、わくわくしながら入学してきた2組の子どもたち。緊張もほぐれ、笑顔が見られるようになってきました。

友だちのよいところを見つけるため、帰りの会で「今日のぴかいちさん」を発表したり、友だちによいところを伝えたりする「ハッピーレター」という活動をしています。はじめの頃は、照れくさそうにしていた子どもたちですが、今は自分のよいところを教えてもらい、うれしそうにしています。

「給食を残さず食べたよ！」「マラソン90マスまで走ったよ！」など、学級みんなができたことも増えてきました。学級みんなができると、笑顔の花びらが1枚つきます。花びらが10枚になると笑顔の花が完成し、お楽しみをすることになりました。学級みんなでがんばることが定着し、こつこつと積み重ねた笑顔の花も、ついにパート6に突入しました。子どもたちも楽しみにしており、教室のいろいろなところで笑顔の花が咲いています。



協力・助け合い

3年1組担任 三本 直子



「青葉っ子絆を深めよう」集会にかかわり、「仲間・学校・学級」がもっと好きになるための取組について話し合いました。「協力をさらにするといい。」「助け合っていきたい。」という意見から、「協力・助け合い」を合い言葉に取り組むことにしました。

これまで3年1組では、学級を楽しくする系の活動を子どもたちが行っていました。今回は「協力・助け合い」の合い言葉で、係主催で大縄の八の字跳びを行いました。大縄が得意な子どもも苦手な子どもも、声を掛け合いながら練習するうちに、3分間で跳べる数が増えて大喜びです。また、冬休み前の学級お楽しみ会では、各係が協力して学級の仲をさらによく、楽しくするための出し物を行いました。ミニ障害物リレーで、障害物の下を通るのがなかなかできない友達に「頑張っ。」と応援したり、一緒に友達について走ったりする、ほほえましい子どもの姿が見られました。

絆を深めよう週間は終わりましたが、「協力・助け合い」を大切に、子どもたちの「ぼかぼか笑顔」の学級にしたいという気持ちを高めていきたいと思います。

新しいことにどんどん挑戦

5年2組担任 小黒 智美

5年生から学習面、生活面で新しい活動が加わりました。家庭科の学習では、裁縫や調理に対して楽しみにしている子や不安を感じている子など様々でしたが、学習後に「ボタン付けをやってみたよ」「風呂掃除をしたら喜んでくれたよ」「自分で昼ご飯を作ってみたよ」という声を聞き、大きな成長を感じました。委員会活動では、早く仕事を覚えようと積極的に活動していました。昼の放送やこんにちは運動、図書当番などでみんなの声を聞いたり活動の様子を見たりすると、「頑張っているなあ!!頼もしい!!」と思いました。

給食の時間、音楽会のビデオを見ていたある1年生の子が、掃除で一緒の班の5年生に向かって嬉しそうに手を振っていたこと、そして、画面からいなくなると寂しそうにしていたことを耳にしました。普段の生活で優しくお世話をしているのだから、上級生としての責任感が強くなってきたなあと思い、とても嬉しくなりました。残り3ヶ月、6年生から伝統を引き継ぎ、最上級生に向けて大きくジャンプアップしていきたいと思います。

